資料①

ひびき合う姿とは・・・

みなさんで話し合ったことをもとに、まとめてみました。
子どもたちの具体的な姿をイメージして実践していきましょう。

みんなで関わり合いながら、よりよいものをめざし、
よりよいものを築き上げていく姿。
目に見える、または目に見えないけど、単元のねらいにより近づく心の変容
「強化」「変化」「統合」

＜ブロックのテーマ＞

低学年	中学年	高学年	個学
感じる心、 素直に表現する自分 ・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿	追究する力、 仲間と支え合う自分 ・自分の問題をとことん追求する姿 ・仲間と協働して追究する姿	仲間への理解、 自立する自分 ・仲間を理解しつつ、自分の思いも大切にする姿 ・新しい価値観にふれ、自分を再構築する姿	感じる心、 気持ちを伝える自分

ひびき合う姿を具体的にみとるために

低学年

友達や教師の刺激を感じている姿

○友達や教師の声を受け止める姿
「たしかに」「あー」「なるほど」
「そうか！」「いいねぇ。」
「うーん。」「でも～。」
「おー。」「へぇ。」
「ええっ！？」
○友達の行動を感じる姿
「何をしているの？」「～を使ってるな。」
「それをやっているのかぁ・・・」
「それなあに？」
「何を見てるの？」

刺激を受け止め
素直に自分を表現する姿

＜自分の思いを素直に語る＞
「わたしは～です。」
「ぼくは～だよ。」
「わたしも～だな。」
「ぼくも～思う。」
「わたしも～したい。」
＜自分の思いを伝える＞
「じゃあぼくは～するよ。」
「それは～するといいよ。」
「～したほうがいいんじゃない。」
「～してみようよ。」
「～もやってみよう。」

中学年

仲間と支えあって
追究しようという気持ちで聞き、

〇互いの<u>違いを認め合う姿</u>
「たしかに」「あー」「なるほど」
「その考え方もいいな」
「そういう考え方もできるね」

〇<u>仲間の考えとつなげる姿</u>
「～さんと同じで」
「～さんにつけたしで」
「～さんは～だけど」
「～さんとちがって」

自分の問題の解決に生かしたり、
さらに追究したい気持ちになる

＜意見がもてる＞
考えができた！

＜思いに自信をもつ＞
「そうそう！私もやっぱりそう思う」

＜思いを強める＞
「それもわかるけど、
やっぱり私はこう思う」

＜違う考えに納得する＞
「考えがかわったよ」
「その考えがいいと思った」

＜友達の考えとあわせて＞
「考えに～さんの意見とあわせて
～しよう！」

高学年

自分の思いを大切にしながら聞き、

〇互いに<u>**理解しよう**</u>とする姿
「なるほど」
「そういう考えもあるんだ」
「～という理由でそういう意見なんだね」
「～というところを大切にしているんだね」
「～の点に注目しているから～なのか」
「どういうこと？」「例をあげてみて」

〇<u>**みんなが理解できるように**</u>する姿
「～さんは～考えているんだよ」
「～さんの考えは～ということでしょ？」

聞いたことから、自分を再構築する姿

＜思いを強める＞
「それもわかるけど、～だから
やっぱり私はこう思う」

＜思いや考えに自信をもつ＞
「そうそう！～というところで
私もやっぱりそう思う」

＜違う・新たな考えに納得する＞
「～思ってたけど～って大切だな。」
「その考えの～注目している所
がいいな」

＜考えが深まった＞
「～が大事なのなら、じゃあ
～なのではないか」
「～ということなら～の方がいい」

ブロックテーマを生かすために

・学級経営案で、学級を創るときにめざす児童像を参考にする。めざす児童像に照らし合わせ、聞く・話すの姿や追求の姿を具体的に書いていくとよい。また 2 月の学級経営検討会にて、ブロックのめざす児童像をふり返るようにしていくと、さらに育ちが検証できる。

・指導案で記す本時の「ひびき合う姿」について、「こんな姿をめざす」と記すときに、ブロックのめざす児童像に照らし合わせて具体的に書くようにする。ブロックのめざす児童像がより授業の中で具現化される場面であり、それが協議されることで、同時にブロックのめざす児童像について検証される事にもなる。

・研究協議の際、「ひびき合っていたか？」「解決したい問題はより切実であったか？」ということを元に、今日見た子どもの現状を左下に記載していた。ここに「ブロックテーマに照らし合わせてどうであったか？」ということも付け加えて現状を記載する。そうすることで、ブロックテーマを意識した話し合いができる。

・また、実態によっては、低学年でも中学年よりのテーマをめざすことが出来たり、中学年でも高学年よりのテーマをめざすことも出来る。その際には、指導案などで実態を知るし、めざすところのをより高次のものにしてよいと考える。